



インタビュー

考え方は皆違っても、 おも 想いは同じ 力を合わせれば無限大

若つか人と一緒に歩み始めた町人
カタチはそれぞれ違ってても、がっちり組み合わせれば浮かび上がる
みんなの想い^{おも}が詰まった町のジオラマ



会長の安井敏雄さん(中央)、副会長の福田隆一さん(左)と那須信明さん(右)。幼なじみ3人が町宣会の代表を務める。

歩きたくなる通りに

安井 敏雄 さん(69)
安井蒲鉾店

町宣会は歩きたくなるような「まちづくり」を目指して活動している団体。顔を合せて会話を楽しめる場として活性化させていこうと考へてくるよ。

町が復活するためには、商店街の復活が必要。若い人が出える魅力ある町にしたかね。人

が寄らんことには榮えない。ここには歴史もあって、新麴屋や塩屋、樹齢1300年の楠もある。あとは、活性化のためにアイデアをどれだけ出し合っているかたいね。みんなの考えを寄せてカタチにしていきたいと。75歳までには桜の木も植えたかね。芝生もよかね。ゆっくり歩いて楽しめる通りにした。町に残っている若者は少なかでしょ。この会は、幅広い年代の意見を求めとる。町のこと

を話そうっていう話好きが集まった会だね。規約もなかし、会費もないと。坂田君のように町のことを考えてくれる若者が1人でもいてくれたら、次世代につながる。市で条例とか作ってもらって、新しい家が建つときに町並みが整うともっとよかばってんね。時代が進んでいくのは仕方なけれど、受け継ぐように整理整頓して、空き地を埋めるように町並みができてほしいかね。

歴史を活用していく

那須 信明 さん(70)
旧那須商店オーナー

古いものを残した
ただけじゃない。活
かしていきたいよ。
今のお年寄り
は若い、ここが
集える場所
になって、顔を
突き合せて話
ができる、そ
んな生活の
場であってほ
しいと願って
るよ。

大学から町を
離れたけれど、
古着屋や貸し
宿、ブツ

クギヤラリーとして再生している。活用してほしいから、貸し出すとたいね。魅力ある古い建物を活かしたい。

全国の住宅と短期居住者を結ぶ「ADDrESS」にも登録しているよ。いろんな人の交流の場になってほしいと思ってるからね。塩屋が隣にあったからそう思うのかもしれないね。ここが中心街になってほしいと。どうにかしたい気持ちでいっぱいだよ。

町は一つの家族

福田 隆一 さん(69)
福田薬局

「かるかや市」では、この界隈に眠っている品物を売る。それはまだ使える物ばかり。できるだけ安く提供しているね。それは、助け合いましよう、町は一つの家族だということ。

昔は、声を掛け合うことが当たり前。光景だった。近所でもよその子どもにご飯を食わせて、遊ばせて。そうやって育ったもの。理由はそれぞれあるけれど、関係が希薄になってきた。この会の活動は、コミュニティの力をアップさせようということ。



たのうえ 田上 英次郎 さん(69)
りがら Re+ (旧那須商店内)

那須さんとは高校の同級生。ふるさとを活性化させたいという気持ちでいて。じゃあ、お店出してみようかなと古着屋を那須さんの家に出店。人通りがなくて厳しいけれど、このお客さんはいいね。値切らない(笑)。新参者だから、町宣会では意見はなかなか言えない(笑)。

夜の帳が下りる頃、ここには人っ子一人いなくなる。だけど夜はレトロでいい。トンネルを抜けたらそこは上町^{かまち}だったって感じかな。

一押しはレトロな町並み



写真に納まる参加者



居住スペース 中庭



オープン記念イベント

隠れた人気のクサカメ

9月19日、定額料金で全国どこでも住むことができる多拠点居住サービス「ADDrESS」の宇城拠点^{うき}が旧那須商店にオープン。イベントでは空き店舗を活用した商店街の活性化などの事例が紹介された。



町が面白いね。



「かるかや市」では、旧那須商店の前に丁寧にクリーニングされた格安の古着が並び。